

英米語学科 カリキュラムマップ(2025年度入学生)

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(英語)の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性) ② 英語圏のことば、文化、コミュニケーション、歴史、習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(英語圏の見識) ③ 英語力を礎に専門性の高い学問を語学、歴史、社会、教育などの領域について探究することができる(英語で学問探究) ④ 異文化理解を踏まえた英語によるコミュニケーションができる(英語コミュニケーション力) ⑤ あらゆる分野で英語を用いて活躍することができる(仕事で通用する語学力) ⑥ 国際的に通用する高度な英語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(国内外での貢献性)											
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎ 達成のために特に重要 ○ 達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
	英語A(Reading)	演習	1	1	実際に使用される生きた英語を学習し、基本的な用語や言い回し、様々なテーマに関する一定の長さの英文を素早く理解する。	1.基本的な文法の確認、文と文のつながりと内容を理解する。 2.一定の長さのパラグラフを読み、その内容と要点を正確に理解する。		○	○	◎		
	英語A(Writing)	演習	1	1	まとまった英語を書く能力の基礎を養う入門編である。英語を書く際に注意すべき基礎的事項を学びながら、英文作成のトレーニングを実施する。	1. 基本的な文法上のミスをせずに短い英文を作成する。 2. 英英辞書を活用して、語のニュアンスにも配慮しながら適切な表現を用いる。		○		◎	◎	
	英語A(Grammar)	演習	1	1	英語でコミュニケーションをするための約束事を身につけることによって、受信能力(英語の読解力と聴解力)と発信能力(自分の意見を能動的に英語で書く能力と話す能力)が求められるさまざまな状況に対応できる実用的な英語力の養成を図る。特にこの授業では、英語の語句についての約束事を身につけるためのさまざまな学習活動を行う。	1.入門レベルの文法運用力(特に英語の語句についての文法運用力)を身につける。 2.受信能力につながる文法知識の育成をはかる。			○	◎	○	
英語A(Oral Communication 1)	演習	1	1	「英語A～C(Oral Communication 1)」では、大量の英語リスニングを実践する。このコースでは、英語リスニングの初級に相当するため、句や文レベルで起こる諸特徴(音の脱落・同化、連結)を理解することを重視し、その音声変化パターンを学習する。	1.標準的な発音を聞き、似たような音が使われる語を聞き分ける。 2.明瞭かつ注意深い発話で、やや長めの英語表現を聞き取り、理解する。	○			◎	○		
英語A(Oral Communication 2)	演習	1	1	社会生活の様々な場面で口頭でのコミュニケーションをはかる能力を養成する。英語A(Oral Communication 2)はスピーキングの初級コースであり、日常生活で遭遇する状況において、平易な英語表現を使って自ら意思表示をする訓練を行う。また、日本人には習得が困難な個々の発音や、句や文単位での音の同化や連結の練習も平行して実践する。	1.基礎英会話のフレーズに親しむ。 2.十分に意思が伝わるイントネーション、発音、語句の運用を目指す。	○	○		◎			
英語A(Integrated English)	演習	1	1	実際のコミュニケーションでは、「聞く」、「話す」、「書く」、「読む」の4技能を単独で用いることはまれで、ほとんどの場合、どれかを組み合わせて使う。この授業では、4技能を統合的に用いることにより、実践的なコミュニケーション能力の育成を目指す。授業は基本的に英語で行われ、日常的な話題から社会的な話題まで、幅広い話題について、情報や考えを理解し、発信する技能統合型の活動を行う。	1. 日常的な話題や社会的な話題について、話されたり、書かれたりした考えや情報を理解することができる。 2. 日常的な話題や社会的な話題について、基本的な表現を用いて情報や考えを話したり、書いたりすることができる。	◎	◎		◎			
英語B(Reading)	演習	1	1	英語で書かれた一定量の長さの評論等の文章を読み、より一層の読解力を身に付けることを目的とする。	1.パラグラフごとに内容を素早く理解し、全体の概要を理解する。 2.より長い評論等の文章を読み、より深い読解力を身に付ける。		○	○	◎			
英語B(Writing)	演習	1	1	まとまった英語を書く能力の基礎を養う入門編である。英語を書く際に注意すべき基礎的事項を学びながら、英文作成のトレーニングを実施する。	1. 基本的な文法上のミスをせずに短い英文を作成する。 2. 英英辞書を活用して、語のニュアンスにも配慮しながら適切な表現を用いる。		○		◎	◎		
英語B(Grammar)	演習	1	1	英語A(Grammar)で修得した英語の語句に関する約束事をもとに、中級レベル程度の英語教材を使用し、各文法項目についてのより深い情報を学習していく。	1.英語の語句についてのさらなる文法運用力を身につける。 2.受信能力につながる文法知識の発展と強化をはかる。			◎	◎	○		
英語B(Oral Communication 1)	演習	1	1	音声教材をよく聞き、モデルに近い音を模倣・反復することにより、英語の聴覚像を身につけることを目指す。自然な英語に慣れるため、英語圏の映画・ドラマ・ニュース・インタビューなども教材として用いる。	1.標準的な発音、ゆっくりとした口調で、短いニュースを聞き取り、半分以上を理解する。 2.多少のなまりがあってもその発話を理解する。	○			◎	○		
英語B(Oral Communication 2)	演習	1	1	社会生活の様々な場面で口頭でのコミュニケーションをはかる能力を養成する。本コースでは、ロールプレー、ペアワーク、ゲームなどを通じて、買い物・電話・学校生活などの特定の場面で、聞き手の発話を理解し、自ら意思表示をする訓練を行う。また、日本人には習得が困難な個々の発音や、句や文単位での音の同化や連結の練習も平行して実践する。	1.英会話技術を高め、基礎英会話のフレーズに親しむ。 2.十分に意思が伝わるイントネーション、発音、語句の運用を目指す。	○	○		◎			

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(英語)の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性) ② 英語圏のことば、文化、コミュニケーション、歴史、習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(英語圏の見識) ③ 英語力を礎に専門性の高い学問を語学、歴史、社会、教育などの領域について探究することができる(英語で学問探究) ④ 異文化理解を踏まえた英語によるコミュニケーションができる(英語コミュニケーション力) ⑤ あらゆる分野で英語を用いて活躍することができる(仕事で通用する語学力) ⑥ 国際的に通用する高度な英語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(国内外での貢献性)					
	科 目 名	授業形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標 ディプロマ・ポリシーの番号 ◎ 達成のために特に重要 ○ 達成のために重要
						① ② ③ ④ ⑤ ⑥
英語B(Integrated English)	演習	1	1	この授業では、英語A(Integrated English)に引き続き、4技能を統合的に用いることにより、実践的なコミュニケーション能力のさらなる向上を目指す。基本的に英語を教室内のコミュニケーションの媒体とし、日常的な話題から社会的な話題まで、幅広い話題について、情報や考えを的確に理解する発信力や、情報や考えを適切に伝える受信力を強化するための活動を行う。	1. 日常的な話題や社会的な話題について、話されたり、書かれたりした考えや情報を的確に理解することができる。 2. 日常的な話題や社会的な話題について、適切な表現を用いて情報や考えを話したり、書いたりすることができる。	◎ ◎ ◎
英語C(Reading)	演習	2	1	筆者の中心メッセージを押さえることに主眼を置きつつ、各文章の構文、文法をより正確に捉え、より深い英文読解力を養う。	1. ページ単位での内容理解を深め、数ページごとの理解を素早く行い、日本語訳や要約ができるようにする。 2. 筆者の中心メッセージを押さえることに主眼を置きつつ、各文章の構文、文法をより正確に捉え、より深い英文読解力を養う。	○ ◎ ◎
英語C(Writing)	演習	2	1	まとまった英語を書く能力の基礎を養う初級編である。英語を書く際に注意すべき事項から基礎となるレベルのものを身につける。そのため、実践中心のトレーニングを実施する。和文英訳ではなく、自分の言いたいことを英語の発想で英語らしい表現で表すことを学ぶ。この授業で身につけた英語表現力は「英語D～F(Writing)」へとつながる。	1. 伝えたいことが明確に伝わるよう、語や表現の選択に気を配り、短い文章を作成できる。 2. 書いた後に基本的な文法事項の点検ができる。	○ ◎ ◎
英語C(Oral Communication 1)	演習	2	1	この授業は、英語リスニングの中・上級に相当する。「英語A-B(Oral Communication 1)」で学習した能力のさらなる向上を目指すために、英語国民が日常的に接しているマスメディアで使われる英語を使って訓練をする。口語の特徴に重点を置いたリスニングを目指す。	1. 標準的な発音が使われたニュースを大まかに理解する。 2. 多少のなまり、口語特徴を理解し、大まかに内容を理解する。	○ ◎ ◎
英語C(Oral Communication2)	演習	2	1	この授業は、英語スピーキングの中級クラスに相当する。「英語B(Oral Communication 2)」で身につけたコミュニケーションスキルを媒体に、社会生活で遭遇する様々な場面にも即断的に対応できる会話能力を養成することを旨とする。授業では、「英語B(Oral Communication2)」と同様に、ロールプレイ・ペアワーク・ゲームなどを通じて、大量のアウトプットを行う。また、つなぎの言葉の使用、会話の進行のコントロールなどのコミュニケーション・ストラテジーを用いる練習も行う。	1. 本コースでは、「英語 B(Oral Communication2)」で習得した意思表示に磨きかける。 2. イントネーション、発音に注意し語彙力の向上もはかる。	○ ○ ◎ ◎
英語C(Presentation)	演習	2	1	英語によるプレゼンテーションの入門クラス(4段階の中の第1段階)に相当し、オーラルコミュニケーションの観点から、英語国民の発想・ロジック・非言語的コミュニケーションの要素に着目しながら英語で各種スピーチをしたり、英語で発表することができる実践的なプレゼンテーション能力を養成する。	1. プレゼンテーション技術の基礎を習得する。 2. プレゼンテーションに必要な声の要素(発音、イントネーション、声量)や顔の表情、ジェスチャーの効果的な表現法を身につける。	○ ○ ◎
英語C(Integrated English)	演習	2	1	英語A, B(Integrated English)での学習内容をもとに、文化・社会・環境問題や世界各地の時事問題を「英語で学ぶ」スタイルの程度をさらに増やしていく。「読む、書く、聞く、話す」の4技能をベースにするが、英語C(Integrated English)では特に発信力(自分の意見を能動的に英語で書く能力と話す能力)に重点をおいている。	1. テキストや英字新聞などの読み物を通して、多種多様な社会問題に触れ、国内外の時事・文化・社会についての知識を身に付け視野を広げる。 2. 読み物に関する質疑応答のための情報収集力・整理力を英語で行うことができる。	◎ ◎ ◎
英語D(Reading)	演習	2	1	より高度な英文を精読することにより語彙、文法、構文を確認しながら、英語の文章構成や文脈において内容を正確に把握し、中心メッセージについての理解を深める。文化的、歴史的背景についても正しく理解する。	1. 時事英語や日常生活でよく使われる表現を扱ったテキストなどに頻出する専門用語を含む英文が理解できる。 2. 複雑な英語の文章構成や文脈において内容を正確に把握し、中心メッセージについて正しく理解できる。	○ ○ ◎ ◎
英語D(Writing)	演習	2	1	アカデミックな英文でよく用いられるパラグラフの構造と各文の役割を理解した上で、自分でパラグラフを作成できるようになることが目標である。模範的な文章を読み、パラグラフ・ライティングの実践を通して英語のもつ論理展開を体験的に学ぶ。	1. 分かりやすいパラグラフとはどういうものかについて説明することができる。 2. 各文の役割を意識し、まとまったパラグラフを作成することができる。	○ ◎ ◎
英語D(Oral Communication1)	演習	2	1	英語リスニングの総仕上げである。これまで学んできた内容をもとに、BBC・CNN・ABCなどのイギリスやアメリカのラジオ・テレビ番組で放送されているニュース・スピーチ・インタビューなどを教材として用いる。英語母語話者のナチュラルスピードを聞き取れるようになる訓練を行う。	1. どのような種類の英語でも、母語話者の英語を理解する。 2. ニュース、映画などの幅広いジャンルで用いられる英語を十分に理解する。	○ ◎ ◎
英語D(Oral Communication2)	演習	2	1	この授業は、様々な社会問題、英語圏および自国の文化などについて自分の考えを論理立てて相手に的確に伝える力の基礎を築くことを目的とする。そのような高度なスピーキング力を養うためには、源泉となるインプットが不可欠である。従って、授業ではまず、新聞・雑誌・ドラマ・ニュースなどのリーディングやリスニングを行う。テキストの内容確認を行った後、そのトピックについて、クラス全体、またはグループやペアでディスカッションし、考えを深める。	1. 英語国民のことば、文化、コミュニケーション・パターンに着目する。 2. 様々な社会的場面で発話するための実用的なオーラル・コミュニケーション能力を養成する。	○ ◎ ◎

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(英語)の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性) ② 英語圏のことば、文化、コミュニケーション、歴史、習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(英語圏の見識) ③ 英語力を礎に専門性の高い学問を語学、歴史、社会、教育などの領域について探究することができる(英語で学問探究) ④ 異文化理解を踏まえた英語によるコミュニケーションができる(英語コミュニケーション力) ⑤ あらゆる分野で英語を用いて活躍することができる(仕事で通用する語学力) ⑥ 国際的に通用する高度な英語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(国内外での貢献性)											
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎ 達成のために特に重要 ○ 達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
英語D (Presentation)	演習	2	1	英語によるプレゼンテーションの初級クラス(4段階の中の第2段階)に相当し、オーラルコミュニケーションの観点から英語国民の発想・ロジック・非言語的コミュニケーションの要素に着目しながら英語で各種スピーチをしたり、英語で発表することができる実践的なプレゼンテーション能力を養成する。本コースでは、英語の各種アナウンスメント・ショートスピーチなどの発表や寸劇などの英語の演技を通して自己表現力を向上させる手法を学ぶ。	1. 機長による短い英語のアナウンスメントや有名なスピーチの断片を暗記して聴衆の前でプレゼンテーションをする。 2. プレゼンテーションに必要な声の要素(発音、イントネーション、声量)や顔の表情、ジェスチャーの効果的な表現法を身につける。	○	○		◎			
英語D (Integrated English)	演習	2	1	英語C(Integrated English)での学びをもとに、さらに発展したsocial issuesを英語で学んでいく。英語(Integrated English)では受信能力(英語の読解力と聴解力)と発信能力(自分の意見を能動的に英語で書く能力と話す能力)をバランスよく養成する。	1. 自ら調べた情報を活用して、自らの考えや意見を論理的にまとめることができる。 2. 各社会問題についてパートナーまたは教員との質疑応答やディスカッションに積極的に参加することで、リスニング、スピーキング力を身に付ける。	◎	◎	○				
英語E (Writing)	演習	3	1	「英語D (Writing)」の授業で習得したパラグラフ・ライティングを基に、書く内容を時事問題、社会問題にまで広め、自分の考えを表現できるようにすることを目指す。時事問題などを取り扱った教材から模範となる英文を読ませることで、自分の考えを論理的に表現できるようにすることを目指す。毎回、予習や課題などを課し、学習成果をテストでチェックしながら授業を進める。	1. 社会問題などの英文を読ませ、その内容を理解するだけでなく、自分の見解を構築する。 2. 論理的に意見を述べる力を身につける。					○	◎	◎
英語E (Presentation)	演習	3	1	英語によるプレゼンテーションの中級クラス(4段階の中の第3段階)に相当し、オーラルコミュニケーションの観点から、英語国民の発想・ロジック・非言語的コミュニケーションの要素に着目しながら英語で各種スピーチをしたり、英語で発表することができる実践的なプレゼンテーション能力を養成する。本コースでは、さまざまなトピックに基づいて英語スピーチを各自で作成する技法を学ぶとともに、「英語D (Presentation)」で学んだデリバリー能力を駆使して作成した各スピーチをクラス内で発表する。	1. プレゼンテーションに必要なデリバリーの要素を網羅し、効果的な表現法を身につける。 2. パワーポイントを活用して聴衆を説得する力を養う。					○	◎	◎
英語E (Integrated English)	演習	3	1	上級レベルの英字新聞や映像資料を通して、様々なsocial issuesへの理解を深め、幅広い知識を身に付ける。さらにディスカッションも加え、英語F (Integrated English)に向けての円滑な移行を図る。	1. 社会問題に関する難易度の高い英文を通して4技能を融合的に運用する力を身に付ける。 2. 読み物に関する質疑応答で英語での情報収集力・整理力を身に付け、自らの考えや価値判断を交えることができる。	◎	◎	○	○			
英語F (Writing)	演習	3	1	「英語D (Writing)」と「英語E (Writing)」で学んだパラグラフ・ライティングの技能を活用し、英語の文章を構成するトレーニングを行う。たとえば、トピックの選び方、論じる範囲の限定、データの収集、アウトラインの作成法などを学び、複数のパラグラフを論理的に構成してひとつの文章を書く訓練を実施する。そのために、うまく書かれた英語の文章の構成を分析的に学ぶことから始め、特定のテーマについて実際にいくつかのパラグラフからなる文章を作成してみる。	1. 書く内容に一貫性をもたせる。 2. 模範となる英文に近い構成にする。					○	◎	◎
英語F (Presentation)	演習	3	1	英語によるプレゼンテーションの上級クラス(4段階の中の第4段階)に相当し、オーラルコミュニケーションの観点から、英語国民の発想・ロジック・非言語的コミュニケーションの要素に着目しながら英語で各種スピーチをしたり、英語で発表することができる実践的なプレゼンテーション能力を養成する。本コースでは、informative speech、ceremonial speech、persuasive speechなどの英語スピーチを各自で作成する技法を学ぶとともに、デリバリー能力を駆使して作成した各スピーチをクラス内で発表する。	1.informative speech、ceremonial speech、persuasive speechなどの英語の実践的スピーチを作成し、発表する能力を養う。 2. プレゼンテーションに必要なデリバリーの要素を網羅し、顔の表情やジェスチャーを効果的にスピーチに組み入れる手法を学ぶ。					○	◎	◎
英語F (Integrated English)	演習	3	1	英語E (Integrated English)の学びをもとに、英語で自らの意思をエッセイ、プレゼンテーションの中で論理的に表現する。	1. 特定の社会問題に関して調べた情報を活用し、批評的思考ができ、自らの意見や考えを論理的に伝えることができる。 2. ライティングに必要な論述形式(prewriting, organizing, writing with a topic sentence and supporting details, evaluating, rewriting)を使って2-3のパラグラフを書くことができる。	○	◎	◎	◎			
観光英語	演習	1・2・3・4	1	この授業では、観光業に関心を持つ学生のニーズを満たすため、航空業、ホテル業などを含めた旅行業に関連する基礎的な英語を通して、特にリスニング、スピーキングのコミュニケーション能力向上を目標とする。ビデオ、音声教材などを利用して、旅行英語に特有の語彙、イディオム、基本表現を習得すると同時に、観光業で求められる一般常識の獲得をめざす。	1. 海外旅行で想定される様々な場面でのコミュニケーション・パターンを学ぶ。 2. 観光業で使用される基本的な語彙、英語表現を使いこなせるようにする。	○				○	◎	
ビジネス英語	演習	2・3・4	1	グローバル化の影響で、外資系企業のみならず日本企業のなかにも英語を社内公用語として使用する企業が増えている。この授業では、履歴書の書き方、面接、電話の対応、クライアントとの商談、商品のプレゼンテーションなど、英米圏のオフィスで日常業務遂行のために使用されている英語表現や語彙の修得をめざす。	1. オフィスやビジネスシーンにおけるコミュニケーション・パターンを学ぶ。 2. オフィスで使用される基本的な語彙、英語表現を使いこなせるようにする。	○				○	◎	

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(英語)の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性) ② 英語圏のことば、文化、コミュニケーション、歴史、習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(英語圏の見識) ③ 英語力を礎に専門性の高い学問を語学、歴史、社会、教育などの領域について探究することができる(英語で学問探究) ④ 異文化理解を踏まえた英語によるコミュニケーションができる(英語コミュニケーション力) ⑤ あらゆる分野で英語を用いて活躍することができる(仕事で通用する語学力) ⑥ 国際的に通用する高度な英語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(国内外での貢献性)					
	科 目 名	授業形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標 ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要
						① ② ③ ④ ⑤ ⑥
	英米文学概論	講義	2・3・4	2	異文化コミュニケーションを学ぶ上で欠かせない、人の「心」を理解することを学ぶ。そのための基礎として時代背景や、韻律法、作劇法、小説理論を学ぶ。	1. 文学作品の時代背景や、韻律法、作劇法、小説理論を応用して作者の意図を知る。 2. 読者として批評を行うことができるようになる。
	伝道英語1	演習	2・3・4	1	天理教の教理を正しく理解し、英語でそれを適切に表現する方法をまなぶ。天理教の基礎的理解には、親神、教祖、十全の守護、かしのかりもの、などの知識が不可欠である。これらの教えを把握したのち、その英語翻訳の実際をみることで、英語で語る天理教教理の世界を把握する。	1. 基本的な教語の英語表現を覚える。2. 教理についての文章を正しく英文に翻訳できる力を養う。
	伝道英語2	演習	2・3・4	1	伝道英語に身につけた教理の理解と適切な英語表現を基礎に、教理について英語で主体的に伝え、質疑応答や説明のための討議ができる力を身につける。教理をテーマに自ら説明の文章を英語で作成し、まとまりのある天理教のプレゼンテーションが英語でできるようにする。	1 海外からの来訪者に対して、天理教教会本部や天理教の施設の案内、教理の説明ができる力を養う。2. 他宗教との比較において、天理教の特徴を説明できる能力を養う。
	英米語概論1	講義	2・3・4	2	3・4年次の「英米語演習」への導入ならびにディプロマポリシーにある「国際性」を身につけるため、現代の国際社会がどのような構造になっており、またどのような問題を抱えているのかを、主として英語圏からの視点を軸に検討する。	1. 国際社会の基本的な仕組みについて説明することができる。 2. 英語圏からみた国際社会の姿を批判的に検討することができる。
	英米語概論2	講義	2・3・4	2	3年次の「英米語演習1」「英米語演習2」と4年次の「英米語演習3」「英米語演習4」などを通して行う英語学についての研究活動への入門となる科目である。この講義を通して英語学(特に英語音声学)の基礎的な事柄を身につけてもらう。音レベルから文レベルまでの概説を理解し、修得することを目的とする。	1. 英語という言葉の様々な側面を知る。 2. 言語における「音」の特徴、重要性を英語に焦点を当てて、観察・分析する力を養う。
	英米語概論3	講義	2・3・4	2	この授業は3、4年次の「英米語演習(英語教育)1-4」を中心として行う英語教育学の専門的な研究への入門となるものとして位置づけられた科目である。ゼミでの学習法、および英語教育学の基本的な知識を講義とディスカッションを通して習得する。英語学習法や英語教授法について、体験したり、ビデオを視聴したりしながら学習する。	1. テキスト批評、英語文献購読、ディベートなどを体験し、ゼミでの学習法を身につける。 2. 英語教育学の基本的な知識を身につける。
	英米語概論4	講義	2・3・4	2	演習に向けて歴史的事実を再構築するため該当する資料を読み、分析力を養いながら解釈する方法を学ぶ。各自授業で紹介する課題のもとに一人(もしくはグループ)5分程度の口頭説明、またはレスポンス・ペーパーに記録し、知識の蓄積を行う。	1. 時代背景や文化的背景に関する知識を身につける。 2. 同時代の他の芸術についてもその思想を理解する。
	英米語概論5	講義	2・3・4	2	多文化・多民族国家アメリカを解剖するために大統領制、移民の現状と課題、女性問題、家庭問題、教育問題などを幅広く学ぶ。	1. 多文化・多民族国家アメリカを多角的に理解できるように幅広く文献を読む力を養う。 2. 多文化・多民族国家アメリカの理解を促進する英語の資料を収集し、読破する力を養う。
	Content Based English 1	講義	2・3・4	2	Content Based English1は、2・3・4年次の選択科目として開講し、すべてを英語で展開する講義授業である。内容は国際関係論を想定しており、米国の大学の1～2年次が主に受講するIntroduction to International Relationsのレベルを想定している。2年次の春学期までに英米語専攻科目を通じて習得された英語力が効果的に応用・運用されるように、担当教員が国際関係論に含まれる各トピックを英語で講義し、受講学生は英語の講義の要点を正確かつ迅速に英語でノートテイクし、ディスカッションに参加できる能力を養成する。	1 国際関係論の様々なトピックに関して行われる英語での講義が理解できる。 2. 英語による講義の要点を理解し、的確かつ迅速にノートテイクする訓練をする。
	Content Based English 2	講義	2・3・4	2	Content Based English2は、2・3・4年次の選択科目として開講し、英語母語話者がすべてを英語で展開する講義授業である。内容は米国の文化あるいは歴史を想定しており、米国の大学の1～2年次が主に受講するIntroduction to ○○のレベルを想定している。また、この講義は、3年次に交換留学あるいは認定留学を予定する学生向けの講義としても位置付けている。2年次の春学期までに英米語専攻科目を通じて習得された英語力が効果的に応用・運用されるように、担当教員が各トピックを多角的に英語で講義する。受講学生は英語の講義の要点を正確かつ迅速に英語でノートテイクし、ディスカッションに参加する能力を養成する。	1. 英米の文化あるいは歴史に関して行われる英語での講義が理解できることを目標とする。 2. 英語による講義の要点を理解し、的確にまた迅速にノートテイクする訓練をする。

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(英語)の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性) ② 英語圏のことは、文化、コミュニケーション、歴史、習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(英語圏の見識) ③ 英語力を礎に専門性の高い学問を語学、歴史、社会、教育などの領域について探究することができる(英語で学問探究) ④ 異文化理解を踏まえた英語によるコミュニケーションができる(英語コミュニケーション力) ⑤ あらゆる分野で英語を用いて活躍することができる(仕事で通用する語学力) ⑥ 国際的に通用する高度な英語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(国内外での貢献性)														
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎ 達成のために特に重要 ○ 達成のために重要								
							①	②	③	④	⑤	⑥			
Content Based English3		講義	3・4	2	Content Based English3～5は、3・4年次の選択科目として開講し、すべてを英語で展開する講義授業である。この科目は英語母語話者の教員が担当し、米国の1～2年次が主に受講するIntroduction to ○○に相当する授業レベルを想定している。2年次の秋学期までに英米語専攻科目を通じて習得された英語力が効果的に応用・運用されるように、各担当教員が選ぶ英米の言語・歴史・社会・文学・文化・英語教育などの専門性の高いトピックを多角的に英語で講義し、受講学生は英語の講義の要点を正確かつ迅速に英語でノートテキングし、ディスカッションに参加する能力を養成する。	1.アカデミックなトピックに関して行われる英語での講義をよりの確に理解し、より正確にノートテキングする能力を育成する。 2.講義内容に関して英語で質問をしたり、また自らに発せられた質問に瞬時に英語で返答できることを訓練をする。				◎	◎	○			
Content Based English4		講義	3・4	2	Content Based English3～5は、3・4年次の選択科目として開講し、すべてを英語で展開する講義授業である。この科目は英語母語話者の教員が担当し、米国の1～2年次が主に受講するIntroduction to ○○に相当する授業レベルを想定している。2年次の秋学期までに英米語専攻科目を通じて習得された英語力が効果的に応用・運用されるように、各担当教員が選ぶ英米の言語・歴史・社会・文学・文化・英語教育などの専門性の高いトピックを多角的に英語で講義し、受講学生は英語の講義の要点を正確かつ迅速に英語でノートテキングし、ディスカッションに参加する能力を養成する。	1.アカデミックなトピックに関して行われる英語での講義を理解し、ノートテキングを行い、英語で質疑するなどの、講義を受講するための総合力を育成する。 2.講義内容に関して、受講生がグループで討議し、また協働活動を通じて自分たちの意見をまとめ、最後に英語でプレゼンテーションができることを目指す。				○	◎	◎			
Content Based English5		講義	3・4	2	Content Based English3～5は、3・4年次の選択科目として開講し、すべてを英語で展開する講義授業である。この科目は英語母語話者の教員が担当し、米国の1～2年次が主に受講するIntroduction to ○○に相当する授業レベルを想定している。2年次の秋学期までに英米語専攻科目を通じて習得された英語力が効果的に応用・運用されるように、各担当教員が選ぶ英米の言語・歴史・社会・文学・文化・英語教育などの専門性の高いトピックを多角的に英語で講義し、受講学生は英語の講義の要点を正確かつ迅速に英語でノートテキングし、ディスカッションに参加する能力を養成する。	1.アカデミックなトピックに関して行われる英語での講義を理解し、ノートテキングを行い、英語で質疑するなどの、講義を受講するための総合力を育成する。 2.講義内容に関して、受講生がグループで討議し、また協働活動を通じて自分たちの意見をまとめ、最後に英語でプレゼンテーションができることを目指す。				○	◎	◎			
英語科指導法1		講義	2	2	この授業は、英語科教員免許の取得を希望する受講生を対象に実施する。「英語科指導法1」では、英語科教員を目指す者への心構えを身につけさせ、また教員免許取得に必要な予備知識を与えることを目的とする。具体的には、「英語教育の目的」を理解し、「英語科教員に求められる知識と英語学力」を確認する。次に、英語教授法の歴史と各教授法の概要を学び、さらに過去と現在の日本社会と英語教育の関係、および「学習指導要領」の内容について学習する。授業では講義だけでなく受講生による発表や討論を行う。	1.英語科教員を目指す心構えを確認し、英語教育に関する基礎的な知識を修得をする。 2.英語教授法の歴史を学び、わが国の英語教育の歴史や現状、特に学習指導用要領について理解する。	○	○			◎				
英語科指導法2		講義	3	2	この授業は、「英語科指導法1」の継続科目として実施する。ここでは、英語科教員に求められる知識のうち、言語習得理論(「言語生得説」「インプット仮説」「動機づけ」「意識化と明示的知識の役割」など)の基礎を学習し、続いて各教授法(「文法訳読法」「直接法」「Cognitive Approach」「Audio-lingual Method」「Communicative Approach」)を用いた授業展開、各言語領域の指導方法、指導案の作成などについて学習する。また、実際の授業を視聴覚教材などで学習したのち、受講生一人ひとりによる模擬授業を実施する。	1.第2言語習得論の理論を理解し、様々な英語指導法の長所と短所を確認することで、より良い英語指導法を自ら模索する。 2.「英語科指導法1」で学んだことを基に、中学または高校の授業の流れを作る、約30分の模擬授業をクラスで展開する。	○	○			◎				
英語科指導法3		講義	3	2	この授業は、「英語科指導法1、2」の発展科目として実施する。「英語科指導法3」では、まず英語科教員に求められる知識と技術のうち、より実践的で、より教室での指導に関係する項目について学修する。クラスルーム研究のうち、特にInput/Output関連研究、イメージ教育、学習方略研究などについて学ぶ。後半では、発音、語彙、文法、コミュニケーション活動など、個々の言語領域の指導法とテクニックについて学習し、メディア・音声機器の使用、補助資料・小テストなどの作成を体験する。	1.英語科指導法の理論のうち、より実際の教室での指導に関連する内容を中心に学修し、理解する。 2.発音、語彙、文法、コミュニケーション活動など、英語指導の基礎的な領域の指導法を的確に理解する。		○	○	○	◎				
英語科指導法4		講義	3	2	この授業は、「英語科指導法3」で学んだことを発展させ、受講生にそれぞれの言語領域をテーマにした模擬授業を体験させることを主な目的とする。「英語科指導法3」で学んだ具体的な言語領域の指導法をもとに、実際の教科書を用いた英語4技能の指導方法と、発音・文法・語彙の指導方法の習得をめざす。このために受講生による複数回の模擬授業を実施する。また教育実習の事前指導として、実習生の心得と予備知識、学校の組織と教員の任務などに関する講義、中・高英語科教員を招いての講話、実習前現場訪問による授業参観などを行う。	1.発音、語彙、文法、コミュニケーション活動など、英語指導の基礎的な領域の理解を基にして、聞き、話し、読み、書くという、英語4技能の効果的な指導法を学修する。 2.「英語科指導法3」で学んだことを基に、語彙、発音、文法、もしくは英語の4技能に関する、約30分の模擬授業をクラスで展開する。		○	○	○	◎				

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(英語)の学位を授与します。 ①本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性) ②英語圏のこば、文化、コミュニケーション、歴史、習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(英語圏の見識) ③英語力を礎に専門性の高い学問を語学、歴史、社会、教育などの領域について探究することができる(英語で学問探究) ④異文化理解を踏まえた英語によるコミュニケーションができる(英語コミュニケーション力) ⑤あらゆる分野で英語を用いて活躍することができる(仕事で通用する語学力) ⑥国際的に通用する高度な英語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(国内外での貢献性)													
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要							
							①	②	③	④	⑤	⑥		
ガイド英語	演習	3・4	1	旅行業界のインバウンドのニーズに対応するため、日本の観光地の紹介を始め、日本の様々な文化側面を紹介するために必要な語彙と英語表現を学修する。特に、観光資源豊富な奈良という立地的優位性を活かし、奈良の観光名所に特に焦点を当てた授業を行う。	1.日本の事象を英語で説明できる。 2.特に奈良の社寺仏閣や史跡のガイドを英語でできる。				◎	◎	◎			
時事英語	演習	3・4	1	現在を生きる人間として、同時代の世界で起きていることに関する情報を、英語という言葉を用いて取り入れることができることを目指す。そのために必要となる基礎的な語彙力と、幅広い聴解力、読解力を身につけるための練習を、実際の記事やテキスト、ニュースやその解説などを題材に行う。	1.時事問題を説明するために必要な語彙、英語表現を習得する。 2.時事問題への関心を深め、国際社会の一員としての英語で自分の意見を発信できる。	○	○		◎		○			
通訳	演習	3・4	1	英語通訳の理論と実践の入門講座。英語会話などの初歩的な通訳訓練からスピーチなどメモを取りながら行う通訳に至るまで、幅広い分野の逐次通訳をこなすために必要な理論と実践能力の養成を目指す。この授業では、現代社会や時事問題に関するスピーチやインタビューを英語から日本語、日本語から英語に訳す逐次通訳に焦点を絞る。英語通訳に必要なフォローアップ、リスニング、要約、メモの取り方、話し方、日常の訓練法などを具体的に学び、即通訳実践に応用する。	1. 一般的な話題についての逐次通訳ができる。 2. 簡単な通訳業務をこなすことができる。	○			◎	○	◎			
翻訳	演習	3・4	1	この授業では、英語で書かれたテキストを日本語に翻訳するための基礎練習を行う。「英語を日本語にする」という一般の授業でも行われているレベルから、「英語で表現されたことを異言語である日本語で表現しなおす」という翻訳というレベルに高めることを目標とする。そのため、英語と日本語の文の構造の違いを認識するための単文訳で基礎を学び、その後まとまったテキストの翻訳に挑戦する。	1. 英日・日英翻訳において、原文の意味・雰囲気 に忠実で、かつ訳出言語の発想法に沿った翻訳をする理論や技術を理解、運用できる。 2. 原文の形式的な字面や構造にとらわれた直訳ではなく、訳出言語で読みやすく、しかも正確な翻訳とはどういものかを常に求める姿勢が身につく。		○		◎	○	◎			
英米語演習1[英語学]	演習	3	2	次年度の「英米語演習3」と「英米語演習4」での研究や「卒業課題研究」「卒業論文」などへ発展するための基礎となる授業である。英語学、言語学などの講義科目で得た知識をさらに増やし、より専門的な情報を得ることを目的とする。また、関心のあるテーマを少人数の演習形式で専門的に深く研究させる。	1.英語での諸現象を理論的に説明する。 2.文献資料の収集方法を学ぶ。	○	◎	◎		○				
英米語演習1[英米史]	演習	3	2	英米史について、アメリカを中心に研究する。テキストを丁寧に読むことで、歴史的内容のみならず、歴史記述の方法について学ぶ。	1.英米史に関する基礎的な知識を培う。 2.研究書を含む2次資料を確実に理解し、まとめる力をつける。	○	◎	◎		○				
英米語演習1[英米社会]	演習	3	2	この授業は3,4年次の「英米語演習(英米社会)1-4」を中心として行う専門的な研究への4段階の第1段階として位置づけられた科目である。多民族・多文化から成り立っているアメリカ社会の全貌を解剖、検証しようとする試みは、意義はあるもののその膨大な範囲と裾野を考慮すると不可能に近い難題ともいえる。従って、本コースにおいては、アメリカ社会における宗教・教育・女性・家族・エンターテインメントの5分野に焦点を絞って、多面的社会の諸相を解明する。	1.この授業の目的は、5つの分野の歴史的経緯をひも解くと共に、現代のアメリカ社会が直面する諸問題を多角的に検証する。 2.幅広く英語と日本語で各分野の資料を読み、ディスカッションする。	○	◎	◎		○				
英米語演習1[英語教育]	演習	3	2	どんなふうには英語を効果的に学べるだろうか。どんな授業が効果的なのだろうか。この授業では、誰でも抱いたことがあるこのような質問に対する答えを、第二言語習得論・英語教授法に関する英文・和文の文献を精読し、また自らの英語学習・指導経験を振り返りながら模索する。特にこの授業では、理論面を重視しながら学ぶ。	1.英語教授法についての知識を身につける。 2.第二言語習得研究の成果を学ぶ。 3.和文・英文の文献を批判的に検討しながら読むことができるようになる。 4.自分の考えを論理的・実践的に表現できるようになる。	○	◎	◎		○				
英米語演習2[英語学]	演習	3	2	「卒業課題研究」「卒業論文」などへ発展するための基礎となる授業である。「英米語演習1」(英語学)での学習内容をより深く研究させ、少人数の演習形式で研究させる。	1.専門書の内容、様々な言語現象の説明を理解し、自分のことばで解釈する。 2.客観的、時には批判的に専門書を読む習慣を持たせる。	○	◎	◎		○				
英米語演習2[英米史]	演習	3	2	英米史について、アメリカを中心に研究する。1次資料を丁寧に読むことで、歴史的内容のみならず、歴史記述の方法について掘り下げて学ぶ。	1.資料を確実に理解し、まとめる力をさらに強化する。 2.書評論文を書けるようにする。	○	◎	◎		○				
英米語演習2[英米社会]	演習	3	2	この授業は3,4年次の「英米語演習(英米社会)1-4」を中心として行う専門的な研究への4段階の第2段階である。多民族・多文化から成り立っているアメリカ社会を解剖するために宗教・教育・女性・家族・エンターテインメントの5分野に焦点を絞って、多面的社会の諸相に精通する。そのために各自が研究テーマを決めて資料収集し、仲間とディスカッションすると共にパワーポイントで発表する。	1.各自の研究テーマに沿って資料を収集し、そのテーマをクラス内でディスカッションしたり、ディベートする力を養う。 2.各自の研究テーマに沿って資料を収集し、そのテーマをクラス内で発表する力を養う。	○	◎	◎		○				

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(英語)の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性) ② 英語圏のことば、文化、コミュニケーション、歴史、習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(英語圏の見識) ③ 英語力を礎に専門性の高い学問を語学、歴史、社会、教育などの領域について探究することができる(英語で学問探究) ④ 異文化理解を踏まえた英語によるコミュニケーションができる(英語コミュニケーション力) ⑤ あらゆる分野で英語を用いて活躍することができる(仕事で通用する語学力) ⑥ 国際的に通用する高度な英語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(国内外での貢献性)					
	科 目 名	授業形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標 ディプロマ・ポリシーの番号 ◎ 達成のために特に重要 ○ 達成のために重要
						① ② ③ ④ ⑤ ⑥
	英米語演習2[英語教育]	演習	3	2	この授業では、英文・和文の文献を精読し、また自らの英語学習・指導経験を振り返りながら、第二言語習得論・英語教授法に関する知識を深化させる。特にこの授業では、実践面を重視しながら学ぶ。各種教授法、リーディング指導、ライティング指導、リスニング指導、スピーキング指導などをテーマとする。	1. 英語教授法についての知識をより発展的に身につける。 2. 第二言語習得研究の成果をより発展的に学ぶ。 3. 和文・英文の文献を批判的に検討しながら読む力を向上させる。 4. 自分の考えを論理的・実践的に表現する力を向上させる。
	英米語演習3[英語学]	演習	4	2	3年次の「英米語演習1、2」で行った基礎研究を土台にして、この「英米語演習3」では、ひとりひとりの研究の深化と発展を図る。具体的には、各自の研究テーマに関して、従来の研究の再整理、それらの研究の問題点の指摘、およびそれらの問題点を解決するための提案の提示が求められる。	1. 関心のあるテーマを見つけ、そのテーマの研究の意義を見つけさせる。 2. しかるべき文献にあたり、その内容を理解したうえで発表する。
	英米語演習3[英米史]	演習	4	2	英米史について、アメリカを中心に研究する。各々の学生は具体的な研究テーマを見つけ、掘り下げた研究を進める。	1. 英米史に関する資料を自ら収集する力を養う。 2. 論文作成を通して、研究課題を見つけ解決する力を身に着ける。
	英米語演習3[英米社会]	演習	4	2	この授業は3、4年次の「英米語演習(英米社会)1-4」を中心として行う専門的な研究への4段階の第3段階に相当する。多民族・多文化から成り立っているアメリカ社会を解剖するために宗教・教育・女性・家族・エンターテインメントの5分野から選び、各自のテーマをさらに掘り下げた発表し、卒業論文へと発展させる。教員やクラスメートからコメントをもらい内容の充実に努める。	1. 英米語演習1と英米語演習2で培われた資料収集能力と発表能力を駆使して、各自のテーマの深い洞察力和観察眼を養う。 2. 資料収集能力と発表能力を駆使して、各自のテーマで卒業論文・課題研究の執筆を開始する。
	英米語演習3[英語教育]	演習	4	2	この授業では、卒業課題研究・卒業論文を執筆するためのリサーチの方法、文献・資料の収集の仕方、論文の書き方などを学ぶ。さらに、各自が興味のあるテーマを選択し調査研究を行い、その内容について発表をする。発表者は、他の受講者や演習担当者からのフィードバックを媒体にして、調査研究をさらに発展させる。	1. 各学生が選んだ卒業課題研究・卒業論文のテーマについて調査研究し、論文執筆に着手する。 2. 英語教授法、および第二言語習得研究についての理解を深化させる。
	英米語演習4[英語学]	演習	4	2	「英米語演習1-3」までの内容から各自が選んだ関心のあるテーマについて、ひとりひとりの研究内容のさらなる深化と発展を図る。具体的には、各自の研究テーマに関して、従来の研究の再整理、それらの研究の問題点の指摘、およびそれらの問題点を解決するための提案の提示が求められる。	1. 各自がテーマを設定し、ある言語現象に対して自分の研究を進める。 2. 文献資料や自ら収集した調査資料を用い、自己の研究を検証をする。
	英米語演習4[英米史]	演習	4	2	英米史について、アメリカを中心に研究する。各々の学生は自らの研究テーマについて掘り下げた探究を進める。	1. 自らの論文を完成させる。 2. 他の学生の論文について批評できる力をつける。
	英米語演習4[英米社会]	演習	4	2	この授業は3、4年次の「英米語演習(英米社会)1-4」を中心として行う専門的な研究への最終段階に相当する。多民族・多文化から成り立っているアメリカ社会を解剖するために宗教・教育・女性・家族・エンターテインメントの5分野から決めた各自の題目について、大々的に文献や資料を収集すると共に各章ごとの発表を続け、卒業論文執筆を課外で続ける。ゼミのクラスでは教員から直接個別指導を受け、卒業論文執筆につなげる。	1. 資料収集能力と発表能力を駆使して、各自の卒業論文・卒業課題研究の執筆を進め、ゼミ内で発表する。 2. クラスメートの卒業論文・卒業課題研究に関する発表を聞いてコメントをし、分析力と評論力を養う。
	英米語演習4[英語教育]	演習	4	2	この授業では、英米語演習3で学習した、リサーチの方法、文献・資料の収集の仕方、論文の書き方に従って、論文を執筆したり推敲したりする。さらに、卒業論文・卒業課題研究の内容について研究発表を行い、他の受講者や演習担当者からのフィードバックを媒体にして、調査研究をさらに発展させる。	1. 各学生が選んだ卒業論文・卒業課題研究のテーマについて、調査研究を行い、論文を完成させる。 2. 英語教授法、および第二言語習得研究についての理解をさらに深化させる。
	英米語海外語学実習	実習	2	4	2年次の秋学期が終了した春休みに、カナダ、アメリカ、オーストラリアなどで約3週間の集中講座を受講し、オーラルコミュニケーションや現地の文化や歴史や社会について学ぶ。また、様々な施設や名所旧跡を訪れ、現地の文化に直に触れる。さらに、大学が幹旋するホストファミリー宅での生活を体験する。海外出発前に事前研修を入念に行い、海外でのマナーを学ぶ。	1. 現地の人々との交流を通じて、実践的な英語力を身につける。 2. 現地の文化を体験し、異文化理解を深める。
	卒業課題研究		4	2	この「卒業課題研究」は選択必修科目であるので「卒業論文」を執筆しない学生はこの科目を履修する。「卒業論文」のように、オープンドックスな論文執筆ではない代わりに、研究レポートや、それに準ずるプロジェクトとしてまとめる。「卒業論文」が4単位配当であるのに対して「卒業課題研究」は2単位配当で、専属の担当教員は任命されないが、3～4年次で履修する「英米語演習」の担当教員の指導を受けながら各自のテーマを研究する。	1. 英米語演習1から英米語演習4で研究してきたテーマを「卒業課題研究」としてきちんとした構成のもとに執筆する力を養う。 2. 「卒業課題研究」を人前で発表し、聴衆からの質問に的確に回答したり、評論したりする力を養う。

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(英語)の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性) ② 英語圏のことば、文化、コミュニケーション、歴史、習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている(英語圏の見識) ③ 英語力を礎に専門性の高い学問を語学、歴史、社会、教育などの領域について探究することができる(英語で学問探究) ④ 異文化理解を踏まえた英語によるコミュニケーションができる(英語コミュニケーション力) ⑤ あらゆる分野で英語を用いて活躍することができる(仕事で通用する語学力) ⑥ 国際的に通用する高度な英語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(国内外での貢献性)												
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎ 達成のために特に重要 ○ 達成のために重要						
							①	②	③	④	⑤	⑥	
卒業論文			4	4	英米語専攻の「卒業論文」は選択必修科目である。英語または日本語のどちらの言語で「卒業論文」を執筆してもよい。「卒業論文」を執筆する学生は、3年次の「専攻演習」を受講するときに担当教員の指導を受けて論文のテーマを決定し、文献資料を収集すると共に収集した文献資料を精読する。また4年次生になると卒業論文執筆のための主査として担当教員が1人ずつ任命され、その指導を受けながら「卒業論文」を執筆する。	1. 英米語演習1から英米語演習4で研究してきたテーマを主査の教員の指導のもとに「卒業論文」として執筆する力を養う。 2. 完成した「卒業論文」を人前で発表し、聴衆からの質問に的確に回答したり、評論したりする力を養う。		○	◎				○